

ISO27001 認証取得報告

会社名 デジック有限会社
所在地 新宿区新宿 1-32-11 山口ビル
資本金 1000 万円 従業員数 10 名
事業内容 デジタル画像加工処理、3次元グラフィックス処理等

1. 当社の概要について

当社は平成 16 年 8 月 9 日の創業です。人間に例えれば小学校入学前の幼稚園児ですが、お陰さまで間もなく満 5 年を迎えることができます。

急速なデジタル化の進展に伴い「撮影、デジタルイメージング」の工程をサポートし、デジタル画像制作から完成ビジュアルまでのビジュアル作りを提供しています。

特徴としましては、画像処理に必要な機材を持ち込み、国内外を問わずスタジオやロケ、何処へでも出向きます。そしてフォトグラファーやデザイナーと綿密な打ち合わせを行いながら、迅速且つ効果的な画像処理を行います。

2. 取得の動機

企業の不祥事(耐震偽装、食品偽装、産地偽装、情報の漏洩、盗難等々)が多発する現代社会において弊社は「誠実と責任」を根幹としています。

弊社の創業前に私が勤務していた同業種の会社で、機密性の非常に高いポジフィルム盗難、紛失がありました。

その他にも依頼を受けて制作、納品をした画像データ(有名タレント数人分)がヤフーのオークションに出品されている事が判明し大きな問題となったこともありました。そのような事故や事件を経験し、より一層「誠実、責任」の大切さを実感し、

そしてそれらを実際に具現化するには何が必要かを考えました。

< 対外的に >

誠実に仕事をします、強い責任感を持って制作業務に当たります・・・と訴えても創業間もなく実績の少ない弊社の信頼性は非常に乏しいし、単なる精神論としか理解して頂けません。

今や死語となりつつある「誠実、責任」を単なる空言にせず、精神論ではなく、それを表現する手段としてのシステムを構築し、物理的側面で「磐石の体制」を構築したいと考えました。

自社だけで独自のルールを作ることは大変困難ですし、有効性にも不安がありました。従ってグローバルスタンダードな情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) に注目致しました。

< 社内的に >

就業規定とリンクさせる事により、組織の構成員として規律に対する意識向上を図ると共に、情報資産の重要性を全社員が認識できるように考えました。

社員同士においても「誠実、責任」ある対応を徹底させる為の手段として捉えました。そして、「誠実、責任」という骨格の上に技術、独創性といった筋肉形成をし、強くたくましい「受け入れ態勢」の構築を図りました。

3. 取得の流れ

時期	主な実施内容
1ヶ月目	ISO規格と情報セキュリティの理解 従業員教育の実施
2・3ヶ月目	情報資産の洗い出し・リスクアセスメント、 マニュアルその他手順の作成
4ヶ月目	リスク対応計画策定、内部監査員養成・内部監査の実施、有効性測定、事業継続計画策定
5ヶ月目	第一段階審査の受審、審査指摘事項の是正や改善
6・7ヶ月目	内部監査の実施、文書確認
8ヶ月目	第二段階審査の受審、審査指摘事項の是正や改善
9ヶ月目	是正対応書の提出、判定会議
10ヶ月目	ISMS審査登録(2009年6月18日)

推進スケジュール

導入決定から認証取得まで 10 ヶ月で達成するように計画を立てました。研修は約 2 回 / 月ペースで実施しました。

推進体制

情報セキュリティ管理責任者(以下 ISMR)、内部監査責任者は必須のポストのため指名しました。また ISMR の補佐役として“ISMS 事務局”と“情報化推進”の機能を置きました。原則上記担当者が文書作成・教育担当者としても活躍してもらいました。

情報セキュリティ委員会を設置しました。委員は全社員とし、各々の役割理解と共に取得年度は意識の共有化に努めました。

4. 取得の過程において配慮した点

まずは ISO 取得!

平成 20 年 9 月にキックオフし、21 年の 6 月に認証取得するまでの期間、ISMS の認証取得を当面の最大目標として捉えました。認証取得という目標に到達しない限り、さらに先にある本来の大きな「目的の達成」ができないからです。

人が大事

弊社のような零細企業が、日常業務に支障が無いように、限られた経営資源を有効に投入する事が一番困難な事でした。又、全社員に教育をし、ISMS の内容だけでなく取得理由等の理解度を必要最低限のレベルまで上げる事に気を配りました。

5. 今後の抱負

古今東西を問わず人の社会には永久に不変の軸があると思っています。又普遍的な原理も存在します。

しかし現代は会社であれ家庭であれ、その軸がねじれたり、曲がったり、歪んだりしているように思います。

当然の事ですが企業は利益を追求する集団です。利益が上がらない企業は存在する意味を考えてしまいます。

しかし最終的な目的は利益を上げる

ことだけではないと思います。利益至上主義、拝金主義が即ち不変の軸のねじれや、歪みに起因しているのではないのでしょうか。

利益を上げることは目標であって、最終目的ではありません。目的達成の為に、又従業員個々の夢実現の為に最低限安定した生活が送れるように利益を出すことが必要なのだとは考えています。

最近見たテレビ番組で、今後人類に押し寄せる 5 つの大波について述べていました。

経済危機 環境悪化 資源枯渇 災害の頻発 紛争の増大

このような暗い未来を予測し、最悪のシナリオでは人類は新しい世紀を迎えられないだろうということでした。そのような悲観的な状況に対しての解決法とは、人類がどん底に落ち込んだ時に叡智が残されていれば、国際的なルールが出来るだろうと予見していました。

そのルールは「利他的な性格」を持つものだろうとも述べていました。

他者の幸福を手助けすることによって自分も幸福になれるという考えです。

今の時点では非現実的な空言として誰も賛同はしないと思いますが、大波をくぐりぬけた時には、これらの発言がより説得力を持ち、重さを増すだろうと感じました。

このテレビ番組で聞いた話と同様に、弊社も「利他主義」を以って、グローバルスタンダードな ISO というルールを遵守し、より一層信頼される企業に成れます様に、又最終目的の達成のために日々精励して参る所存です。

平成 21 年 7 月 10 日

デジック(有)
石井 隆